

人権高等弁務官事務所報道官、中東の状況に懸念を表す

2024/10/01

国連人権高等弁務官事務所

「私たちは中東における敵対行為の拡大と、それが地域全体を人道・人権上の大惨事に巻き込む可能性を強く懸念している。イスラエルとヒズボラの武力衝突が頂点に達し、民間人への被害は非常に深刻である。私たちはイスラエルによるレバノンへの大規模な地上侵攻は、さらに被害を深刻化するだけであると危惧している。レバノンでは、この2週間だけで1,000人以上の人びとが殺されたと報告されている。ヒズボラが昨年10月8日からミサイル発射を激化させて以来、レバノンでは数十万人が、イスラエルでは6万人以上の人びとが避難している。9月中旬に攻撃が激化する以前から、レバノンでは数千もの家屋が壊され、医療施設の10%は閉鎖された。2023年10月から、41人の医療従事者が殺され、111人が負傷し、この2日だけで14人が殺されたという。25か所の水道施設も被害を受け、約30万人に影響が出ている。学校と保育園は閉鎖され、そのうちの300か所はシェルターになった。イスラエルの北部とヨルダン川西岸北部では、サイレンが鳴り響き、住民たちはシェルターの近くに留まり、移動を制限し、集会を避けるよう指示された。高等弁務官はすべての当事者に対し、現在の破壊と暴力の終焉のために交渉を進めるよう求める。」